

佐野市景況レポート

平成26年4～6月期



佐野商工会議所

〒327-0027 佐野市大和町 2687-1

TEL 0283 (22) 5511 FAX 0283 (22) 5517

HP <http://www.sanocci.or.jp>

E-mail s-cci@sanocci.or.jp

調査協力：佐野市あそ商工会

佐野市景況調査報告

(平成26年4～6月期)

佐野市内の建設業・製造業・商業・飲食店・サービス業290社を対象に調査し、201社(回答率69.3%)から回答がありましたものを取りまとめたものです。

《 概 況 》

消費増税後の反動減は想定内、先行きの改善を見込むも楽観できない

6月の日銀短観では、消費税の影響で製造業・非製造業ともに幅広い業種で業況が悪化した。先行きは、非製造業は横ばいであるが、製造業では改善が見込まれるなど業況判断DIの水準は高く、大企業の景況感は総じて良いと判断しているようだ。一方、中小企業では、人手不足、賃金や原材料の上昇が経営を圧迫している面もあり、業況の改善は限定的との見方もある。特に、中小企業は、大企業の新卒採用の大幅な増加等より、労働需給のタイト化が予想される。

近年、飲食店や小売店などで、60歳以上とみられるシニアの働く姿が多く見かけるようになった。この現象は、定年後もはたらく意欲を持った人や収入の必要な人が増え、それに加え、シニア雇用を増やしている企業の様々な事情があるようだ。

「意欲のある人求めます。ただし60歳以上」、これは日本一の高齢者雇用企業である加藤製作所(岐阜県中津川市、社員数105名・内パートシルバー社員50名)のパートシルバー社員募集のキャッチコピーです。当初、365日稼働の「コンビニ工場」実現のために、土日祭日に高齢者に働いてもらうことから始まった。軌道に乗るまでの障害を乗り越え、現在では工場の稼働率UPと短納期対応、そして、高齢者の生きがいと収入の提供の両面を達成した。このように、高齢者の活躍できる環境作りが、企業にとっての新たな成長要因となるようだ。

次に、佐野市の平成26年4-6月期の景気調査概況を見ると、全業種業況DI指数▲12.6、前期(26.1-3月)比▲7.6ポイントの業況悪化となった。利益DI指数(26.4-6月)は▲21.2、前期比▲1.9と減少幅は少なくなったが、業況DI指数と同様な悪化となった。これは、売上高DI指数▲12.4、26.1-3月期比▲6.2の悪化による影響が大きいものと思われる。

今後3ヶ月間(26.7-9)の予想全業種業況DI指数は、▲10.7、前期比+14.3と大幅な改善を予想する。これは、26.7-9月期予想売上高DI指数▲9.9、前期比+19.1の大幅改善によるものである。

消費税改正に伴う販売価格への転嫁状況を見ると、「転嫁した」43%、「ほぼ転嫁した」19%と、62%の事業所がほぼ転嫁できている。反面、「全く転嫁できない」11%、「あまり転嫁できない」9%と、20%の事業所がほとんど転嫁できていない状況でもあり、来年秋の10%への引上げなども見据え、持続的な価格(製品)転嫁対策を講じる必要がある。

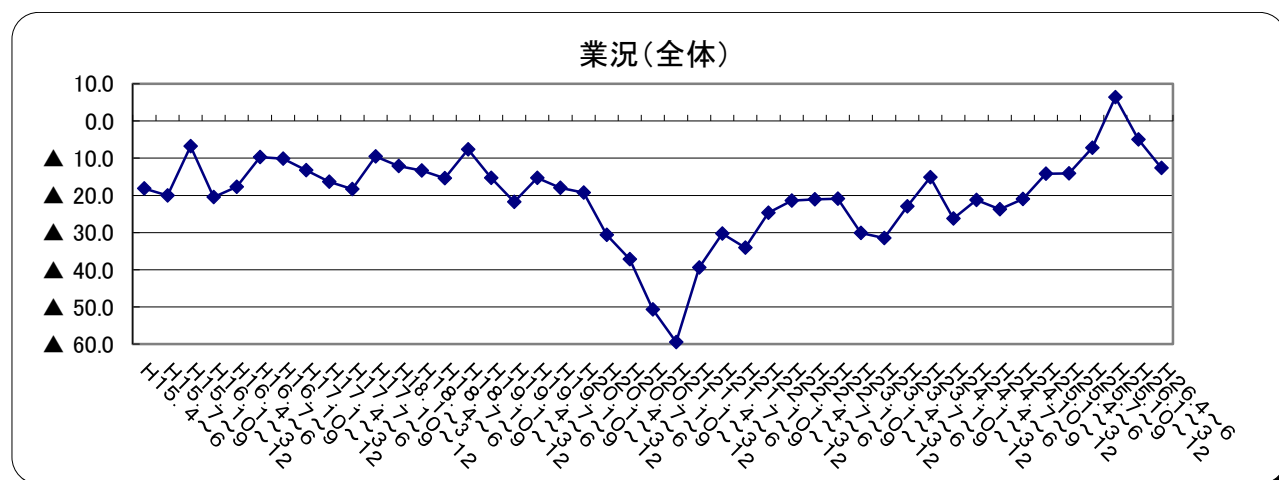
調査協力：OKコンサルティング 代表 岡野 清(中小企業診断士)

☆ 業況について

全業種 DI 指数 ▲12.6、前期比 7.6 ポイント悪化

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

① 建設業 15.0 ポイント、②機械・金属製造業 12.2 ポイント、③食品製造業
及びその他の製造業・卸売業 0.0 ポイント

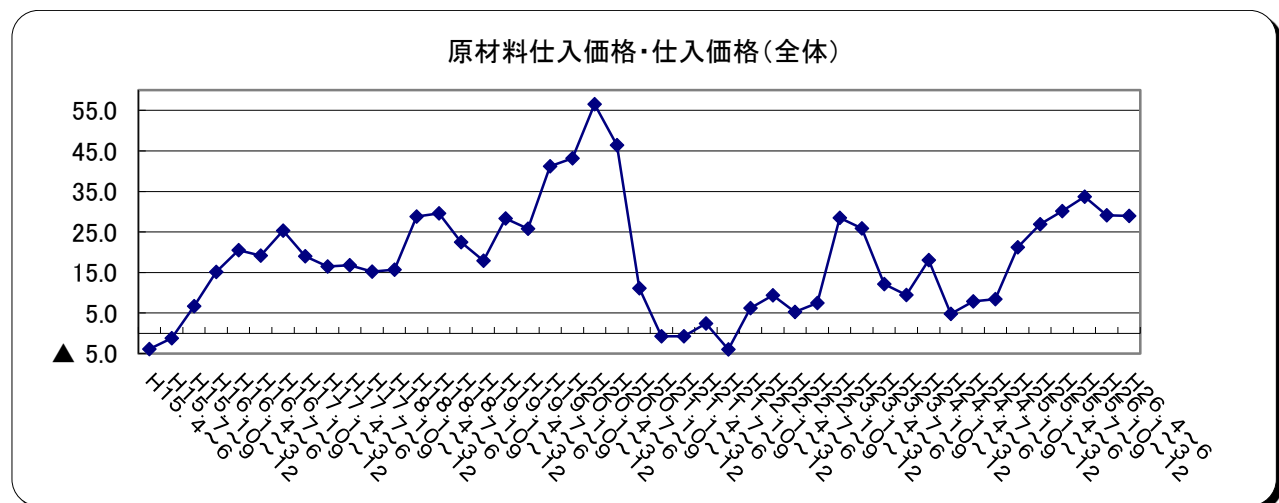


☆ 原材料仕入価格・仕入価格について

全業種 DI 指数 29.0、前期比 0.1 ポイント減少

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①建設業 66.7 ポイント、②その他の製造業 51.2 ポイント、③食品製造業 46.2 ポイン
ト、④繊維品製造業 36.8 ポイント、⑤飲食店 35.3 ポイント



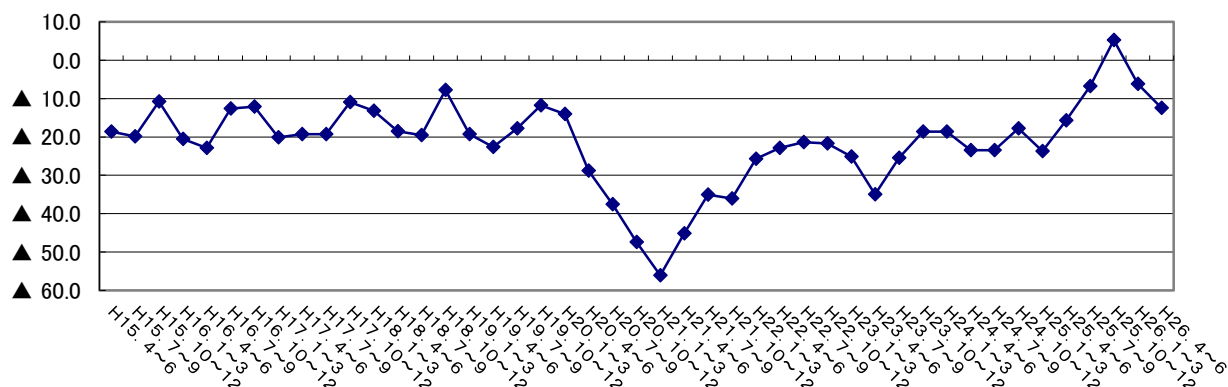
☆ 売上高について

全業種 DI 指数 ▲12.4、前期比 6.2 ポイント減少

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①卸売業 16.7 ポイント、②食品製造業 11.5 ポイント、③飲食店 8.6 ポイント、④そ
の他の製造業 7.7 ポイント、⑤機械・金属製造業 6.3 ポイント

売上高(全体)



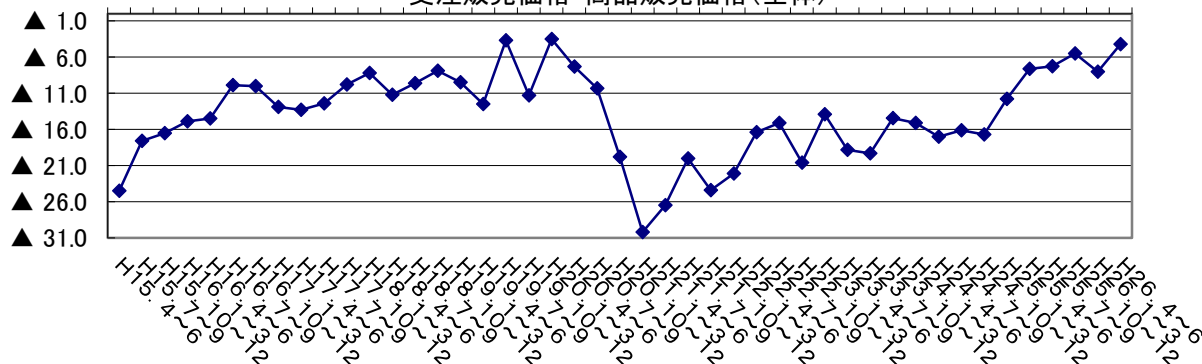
☆ 受注販売価格・商品販売価格について

全業種 DI 指数▲4.2、前期 3.8 ポイント増加

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①その他の製造業 20.9 ポイント、②飲食店 16.7 ポイント、③その他の小売業（大型店含む）7.9 ポイント、④小売業（飲・食料品）及び建設業・機械金属製造業 0.0 ポイント

受注販売価格・商品販売価格(全体)



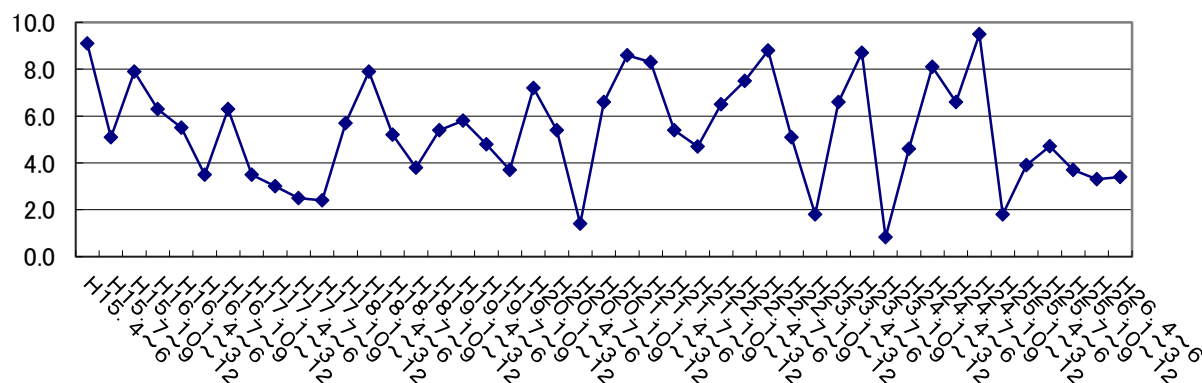
☆ 製品（材料）在庫・商品在庫について

全業種 DI 指数 3.4、前期比 0.1 ポイント増加

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ① その他の製造業 28.6 ポイント、②卸売業 16.7 ポイント、③小売業（飲・食料品）13.0 ポイント、④その他の小売業（大型店含む）11.4 ポイント、⑤設備業 4.3 ポイント

製品(材料)・商品在庫(全体)

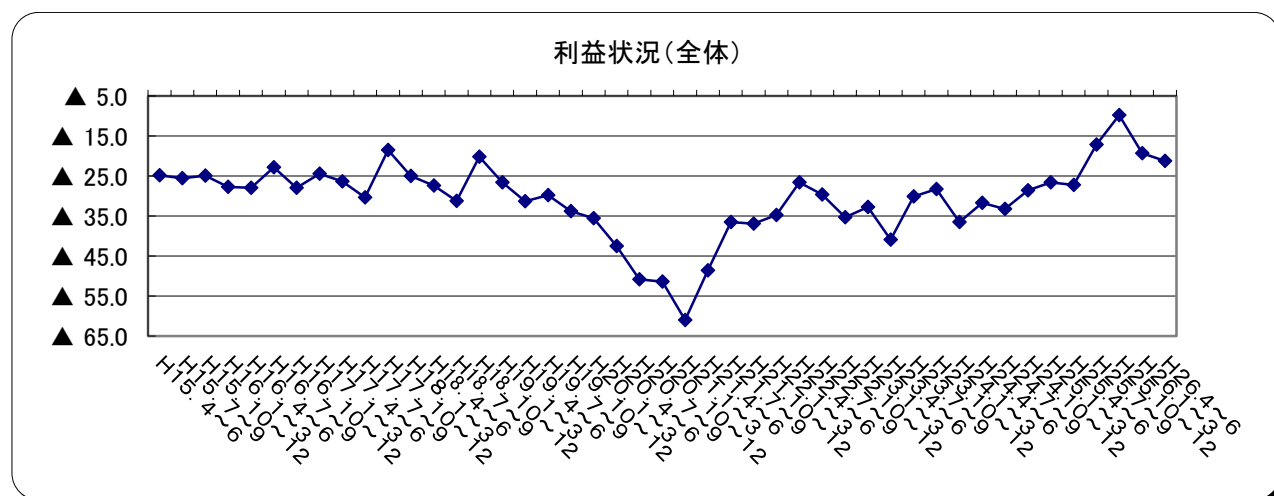


☆ 利益状況について

全業種 DI 指数▲21.2、前期比 1.9 ポイント減少

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①その他の製造業 7.7 ポイント、②食品製造業及び建設業 0.0 ポイント、④機械・金属製造業▲6.3 ポイント、⑤卸売業▲8.1 ポイント

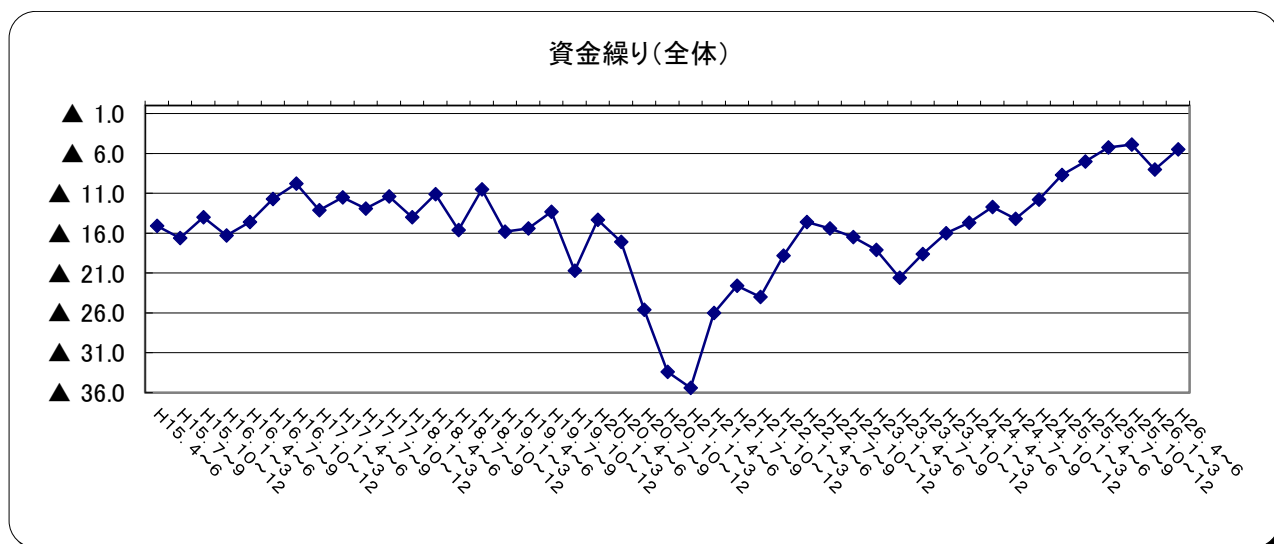


☆ 資金繰りについて

全業種 DI 指数▲5.5、前期比 2.5 ポイント改善

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①建設業 15.0 ポイント、②その他の製造業 13.0 ポイント、③食品製造業及び化学・プラスチック製造業・卸売業 0.0 ポイント



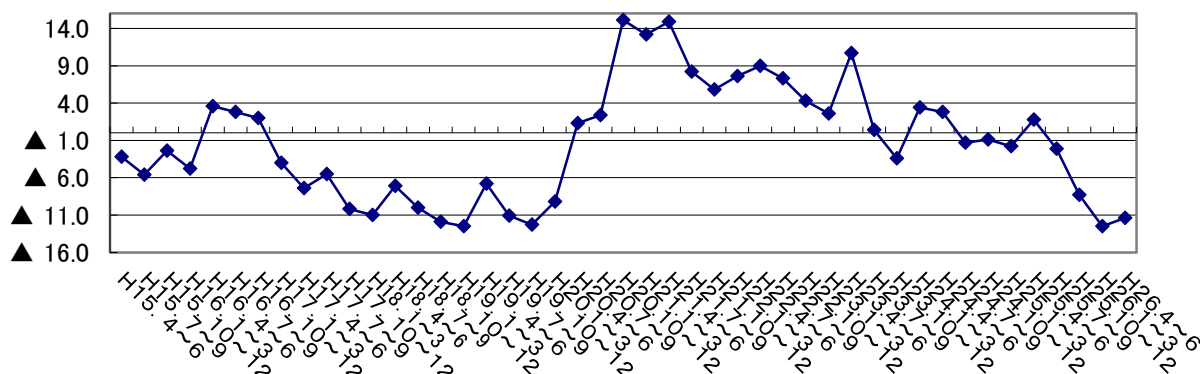
☆ 労働力について

全業種 DI 指数▲11.4、前期比 1.1 ポイント改善

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

①繊維品製造業 4.9 ポイント、②小売業（飲・食料品） 0.0 ポイント、③化学・プラスチック製造業▲3.3 ポイント、④サービス業▲5.7 ポイント、⑤その他の製造業▲6.4 ポイント

労働力(全体)



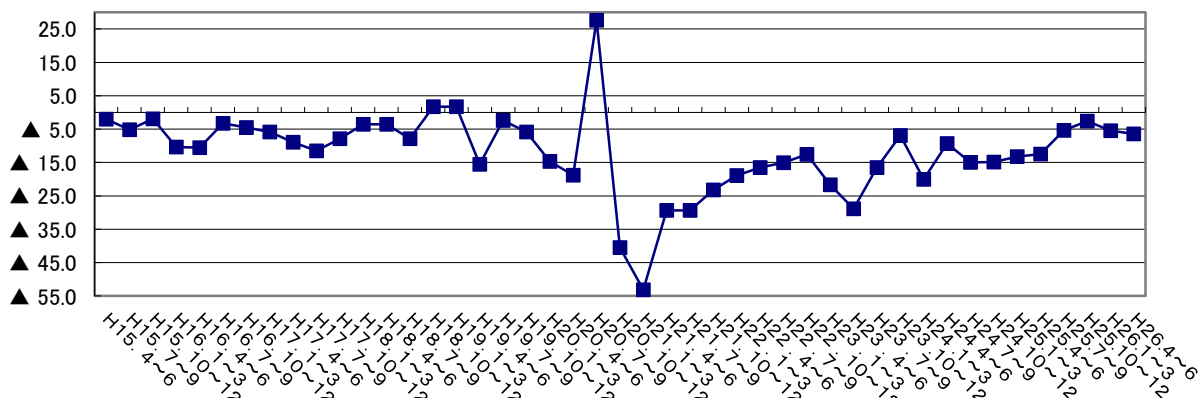
☆ 設備稼働率について (建設・設備・製造業関係)

全業種 DI 指数 ▲6.4、前期比 0.9 ポイント減少

業種別 DI 指数 (上位 5 業種)

- ①機械・金属製造業 21.2 ポイント、②その他の製造業 13.6 ポイント、③建設業 7.3 ポイント、④食品製造業 5.5 ポイント、⑤設備業 9.1 ポイント

設備稼働率(建設・設備・製造業)



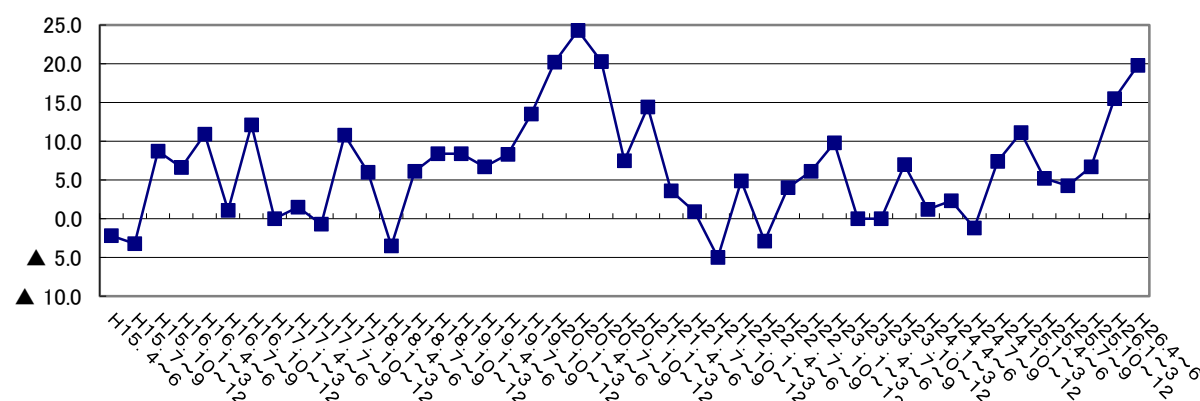
☆ 販売経費について (商業・サービス業関係)

全業種 DI 指数 19.8、前期比 4.3 ポイント増加

業種別 DI 指数 (上位 5 業種)

- ①小売業 (飲・食料品) 42.9 ポイント、②卸売業 24.3 ポイント、③飲食店 15.8 ポイント、④その他の小売業 (大型店含む) 及びサービス業 12.0 ポイント

販売経費(商業・サービス業)



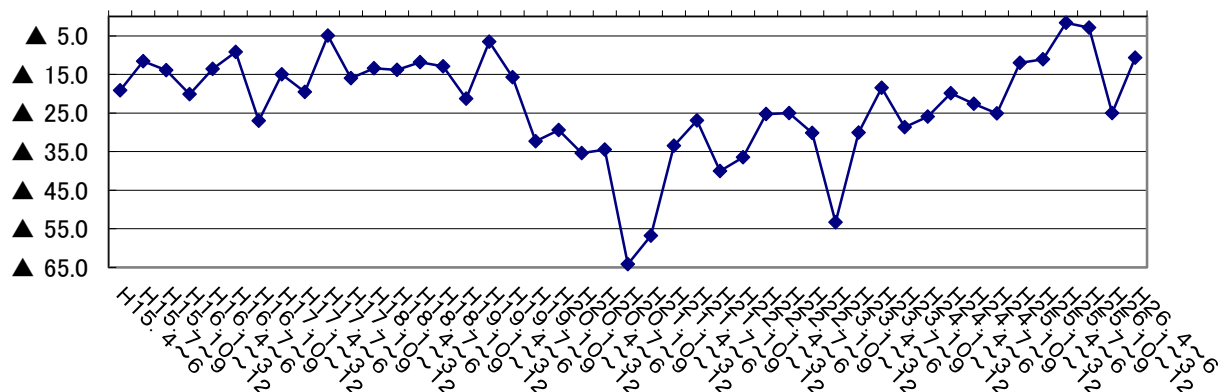
☆ 今後3ヶ月間（平成26年7～9月期の見通し）の業況について

全業種DI指数▲10.7、前期比14.3ポイント改善

業種別DI指数（上位5業種）

- ①建設業15.0ポイント、②化学・プラスチック製造業及びその他の製造業0.0ポイント、④機械・金属製造業▲3.2ポイント、⑤繊維品製造業▲5.7ポイント

業況予想(全体)



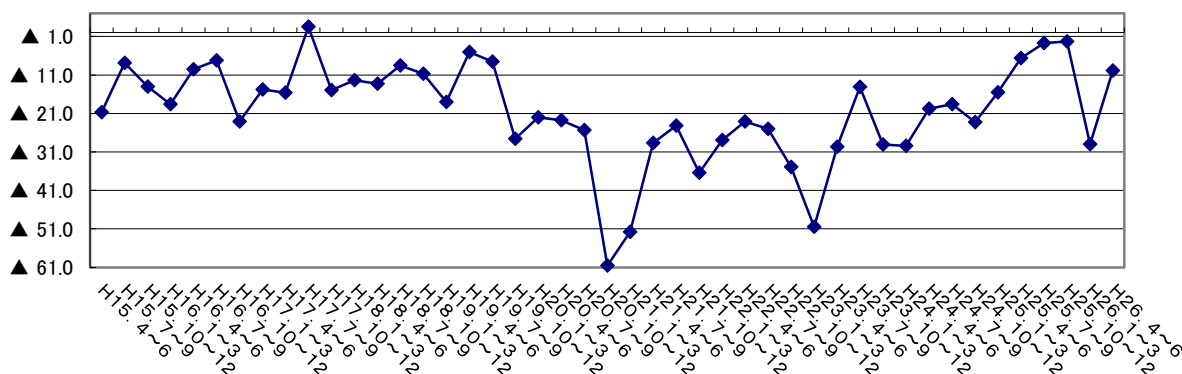
☆ 今後3ヶ月間（平成26年7～9月期の見通し）の売上高について

全業種DI指数▲9.9、前期比19.1ポイント増加

業種別DI指数（上位5業種）

- ①建設業7.3ポイント、②その他の製造業7.0ポイント、③機械・金属製造業0.0ポイント、④繊維品製造業▲5.9ポイント、⑤化学・プラスチック製造業▲7.0ポイント

売上高予想(全体)



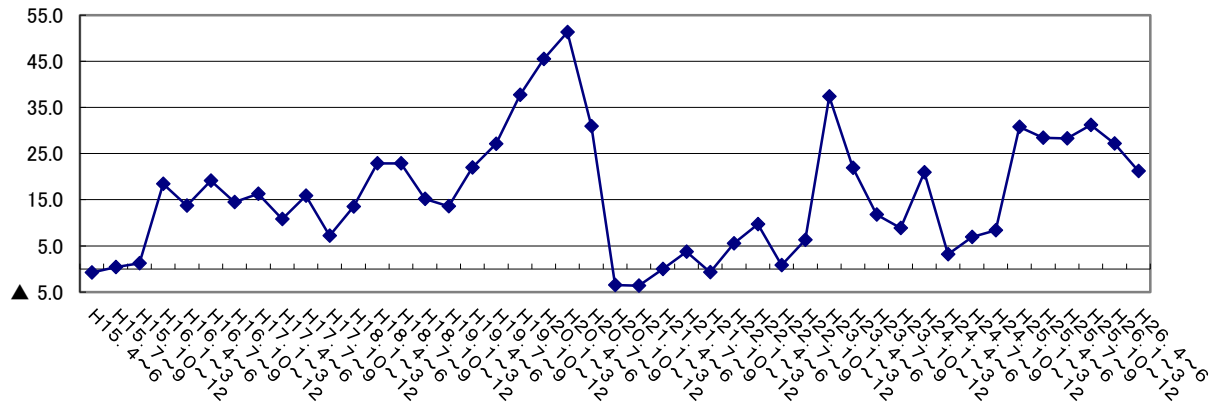
☆ 今後3ヶ月間（平成26年7～9月期の見通し）の原材料仕入価格・仕入価格について

全業種DI指数21.2、前期比6.0ポイント減少

業種別DI指数（上位5業種）

- ①建設業47.4ポイント、②食品製造業33.3ポイント、③サービス業29.4ポイント、④化学・プラスチック製造業24.1ポイント、⑤小売業（飲・食料品）20.9ポイント

原材料仕入価格・仕入価格予想(全体)



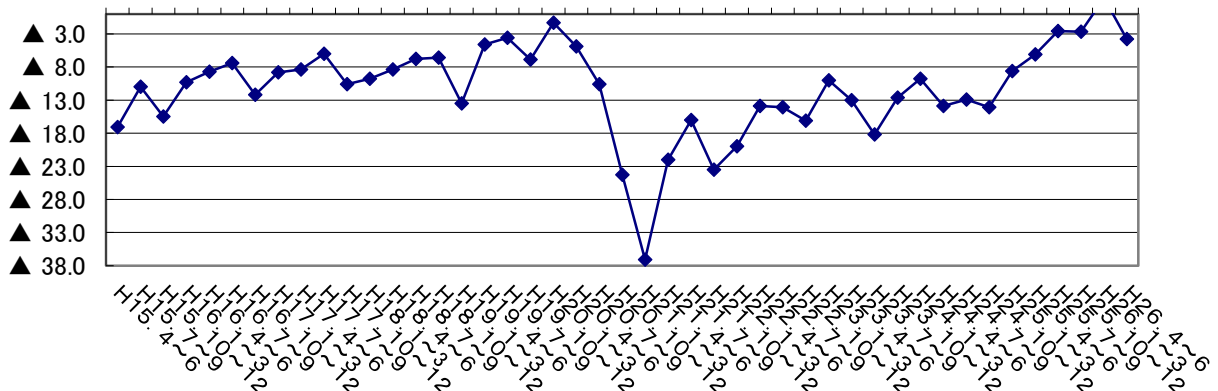
☆ 今後3ヶ月間(平成26年7~9月期の見通し)の受注販売価格・商品販売価格について

全業種DI指数▲3.8、前期比6.2ポイント減少

業種別DI指数(上位5業種)

- ①設備業及び小売業(飲・食料品)42.9ポイント、③その他の小売業(大型店含む)18.4ポイント、④サービス業14.3ポイント、⑤繊維品製造業12.0ポイント

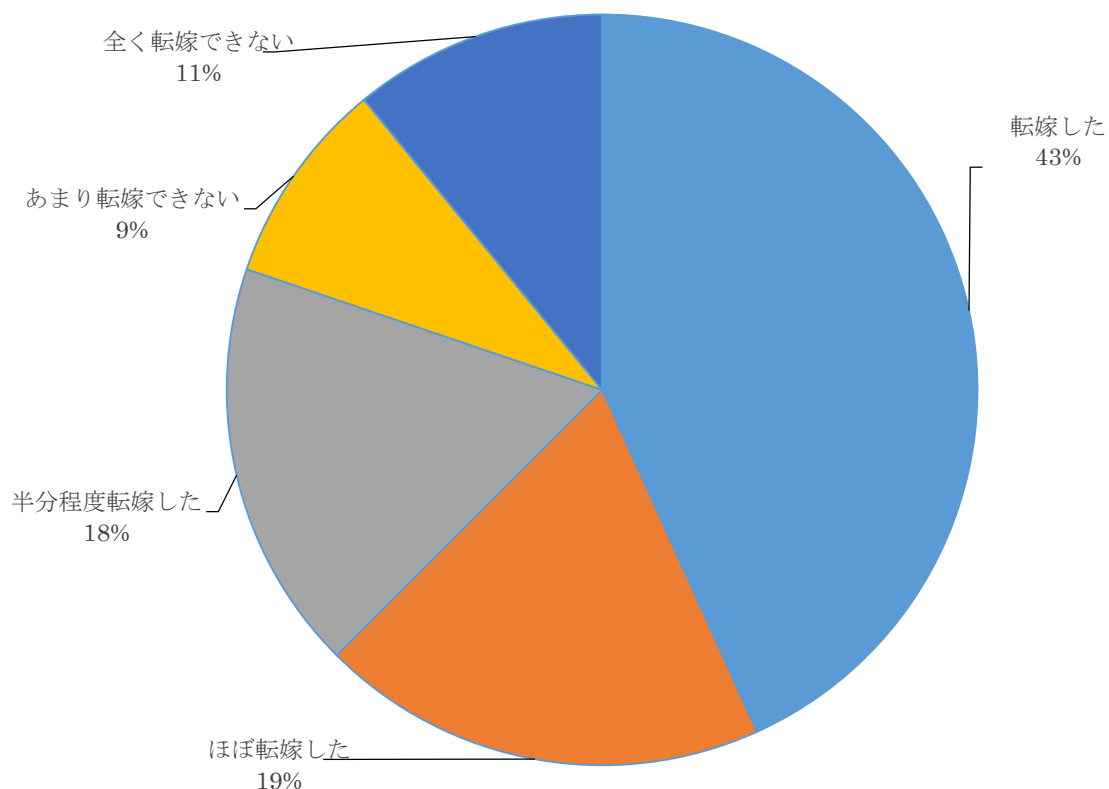
受注販売価格・商品販売価格予想(全体)



☆ 消費税改正(5%→8%)(平成26年4月)に伴う商品(製品)販売価格への転嫁について

消費税の価格への転嫁状況について	比率(%)
転嫁した	43%
ほぼ転嫁した	19%
半分程度転嫁した	18%
あまり転嫁できない	9%
全く転嫁できない	11%
合 計	100%

消費税改正に伴う価格への転嫁状況について



☆ 市内各事業所からの景況に関するコメント ☆

※景況調査にご協力いただきました事業所のうち、「景気に対するコメント欄」にご記入いただいた内容を、そのまま掲載しております。

建設業

- ・消費税アップと実態がかけはなれている。
- ・公共建設投資が減退しており、そのうえ資材高騰、職工不足であるのに、それが設計単価に反映されていない。佐野市においては、規制改革が進まず、民間投資を抑圧する結果となり、開発行為等の民間需要を喚起できず、隣市より閉鎖的であると言われている。

設備工事業

- ・人材が集まらない。
- ・来年の秋に消費税が10%になったらと思うと・・・心配です。

繊維品製造業

- ・年内は、売上はほぼ同様なら良いでしょう。
- ・原材料がどんどん高騰しているので、その辺が少し心配。
- ・消費税増税の悪影響は全く感じられなかった。繊維業界の景気は未だ低迷状況ではあるが、一方では円安効果もあり、国内生産の底打ち感が今後出てくるのではないかな。
- ・毎年この時期は仕事がないので、特別消費税のせいではないと思いますが、アベノミクスも足踏み状態なので、今後の成長を期待しています。
- ・加工費の上昇が大変です(電気、ガス、重油)。中小企業は悪い状況が続くと思われます。

食品製造業

- ・なかなか元気で明るいニュースが発信出来ませんが、新規のお取引様が増えて、いい方向に向かっていきそうです。ただ、夏の暑い時期は、さっぱりした食べ物の方についてしまうので、今後3カ月間は踏ん張りどころだと思っています。
- ・物流費が大幅に高騰し、利益に影響を及ぼす見込みあり。
- ・冷夏予測で6月にブレーキがかかった感があります。夏の天候次第で昨年同様か、減少かが決まります。
- ・原油価格の高騰による燃料費の上昇が続いており、景気回復に悪影響が出ています。

機械・金属製品製造業

- ・先行の見通しがたたない。
- ・仕事量が多いが、人手不足等で消化能力見合いに平準化されて来ている。人件費、運賃及び仕入の高騰で採算は厳しい。
- ・消費税が8%になり、価格表示が税別になり、買い物をしても何か値上りした様な気がする。従来通りの税込み価格表示の方がわかりやすいと思う。大型チェーン店舗をよく利用するが、お客の立場になり表示を変えてほしいと思うのですが…改善してほしいと思います。
- ・アベノミクスと言われる程、中小企業は厳しい状況。
- ・アベノミクス効果が感じられない。見通しも良くない。
- ・今後も受注は増加する見通しであり、労働力確保が問題になってくると思われる。
- ・引き続き、ダンプ車、タンクローリー車、脱着車等の車両は好調です。
- ・良い空気と悪い空気が混ざり合って複雑な天気のような景気に思う。業界地域でまったく違景況感です。
- ・外税方式ですので、請求書発行時に消費税を請求(預り金)していますが、4月1日以降は5%→8%に変えております。製品価格としては従前と同額のままです。
- ・アンケート調査だけでなく、各会社・業種別に現地調査及び聞き取り調査を行い、末端企業(会社)の実情を理解し、各機関への打診・支援等も含め、地域の企業の為の活動をお願いします。

化学・プラスチック製品製造業

- ・この国の政策は何を目標にしているのか？わからないです。
- ・引き続き、円安につき厳しい状況です。

その他の製造業

- ・夏場は例年暇な時期で在庫をする、仕事は生産は落ちるが試作等をして、秋以降にそなえる。
- ・当社は誂え物で仕入品を売るというものではないので、注文しだいです。当期は去年に比べ、早めに注文がきているので売上も少しではありますが上昇していると思います。際物ですので何ともいえませんが、注文が増えるといいと思っています。

- ・営業よりの報告では、先に対する不透明感が強く、売上予測がたたない、人夫不足が問題である。

卸売業

- ・法人税率下げ、早期実施をお願いします。
- ・増税の影響はじわじわと感じます。
- ・7月より価格設定（3.8%～19.6%）

小売業（飲・食料品）

- ・消費税が上って購買欲が無い。当店は幸いにして下野新聞に紹介されたことで市外の方からの注文、来客があって良かった。
- ・増税で値段を変更したが、石油製品の値上がりが6月から始まった。包材等、ガソリン等の影響で、利益分の減少と人材確保のための昇給もあり、先行きが心配です。
- ・増税に伴い、総額表示から本体、税込の2つの価格表示に変更。便乗値上はしていないが、支払い全額は増税分が増えた。4月は厳しかったが、5月、6月と前年並みで推移している。
- ・お年寄りのお客さんが多いので、大事にしたいですね。
- ・客数、客単価の減少傾向にある。
- ・暑い夏は販売が落ち込むのは例年通りですが、今年の夏は消費税が8%になり、特に悪くなると思います。

その他の小売業（大型店含む）

- ・全体的な需要は上向きである。
- ・消費税プラス石油製品の値上がりで消費節約ぎみで売上減少です。
- ・増税前は、かけ込み消費でそこそこでしたが、4月になるとガタンと落ち込みました。やっと6月中半～勝機が出ましたが！
- ・大都市や大企業は景気は上々延びていると思いますが、中小企業は回復の見通し悪く、田沼町中央商店街もいよいよシャッター通りです。商売の継続する事、中々むずかしい状況となっていると思います。
- ・大きな変化はないのですが、少しずつ悪化している様な気がする。じわじわと。
- ・テレビ報道と比べて、いなかの路面店では、景気は今ひとつの様です。（都内のデパートや大型店と比較すると…）
- ・顧客の減少で売上は激減している。

飲食店

- ・増税後の4月は売り上げは良くなかったけれど、5月から売り上げが伸びて来ました。しかし仕入価格も上昇している状況です。
- ・富裕層のお客様と低所得の方の格差が更にきいたと思われます。今後、富裕層のお客様の獲得が売り上げをアップさせるポイントとなると思われます。
- ・建設資材関連の会社はフル操業と聞いておりますが、社員の方の消費が上向いてない。

サービス業

- ・消費税アップの4月以降、客数が減って来ています。増税の消費を皆さんおさえている様です。
- ・大企業を中心に考えた政策のため、中小企業の経営者は非常に苦勞しています。一般企業の従業員は給料が上がらないで物が上ってしまっていて困っています。7～9は企業倒産が出ると考えられます。
- ・良い月もあれば悪い月との差が多いので、安定しないのでむずかしいです。
- ・パート&バイトを募集しても、まったく集まらないです。

佐野市景況調査 要項

- 1 調査時期 平成26年4月～6月
- 2 調査業種 佐野市内に本支店を有する建設業・製造業・商業・サービス業・飲食店など290社（内訳：佐野商工会議所地区（旧佐野市）200社、佐野市あそ商工会地区（旧田沼町・旧葛生町）90社）を対象として実施した。

(1) 建設業

- | | |
|---------|-----|
| ① 建設業 | 25社 |
| ② 設備工事業 | 21社 |

(2) 製造業

- | | |
|------------------|-----|
| ① 繊維品製造業 | 22社 |
| ② 食品製造業 | 18社 |
| ③ 機械・金属製品製造業 | 40社 |
| ④ 化学・プラスチック製品製造業 | 36社 |
| ⑤ その他の製造業 | 22社 |

(3) 商業・サービス業

- | | |
|------------------|-----|
| ① 卸売業 | 15社 |
| ② 小売業（飲・食料品） | 23社 |
| ③ その他の小売業（大型店含む） | 27社 |
| ④ 飲食店 | 19社 |
| ⑤ サービス業 | 22社 |

3 分析方法[景況動向指数（D I）による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で上限限度は、+100・-100となり、プラスは景況の好転、マイナスは景況の悪化をあらわしている。

D I 方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

x：「良い」「増加」「騰貴」「過多」等の回答企業数

y：「普通」「ほぼ同様」「適正」の回答企業数

z：「悪い」「減少」「下落」「不足」等の回答企業数

- 4 主 管 佐野商工会議所
- 5 調査協力 佐野市あそ商工会
- 6 お問合先 佐野商工会議所経営支援課 TEL（代表）0283-22-5511

